

文学館だより

令和 3 年 12 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

開館から 2 ヶ月。お客様が少しずつ戻ってきています。県内はもちろん、県外からもおいでいただくようになりました。先月は、牧水が好き過ぎて沼津に転居したというお客様、牧水が立ち寄った所々を訪ねているという群馬のお客様がお立ち寄りくださいました。

今月は青の國若山牧水短歌大会表彰式があります。全国のお客様との出会いをまた楽しみたいと思います。

第11回 青の國若山牧水短歌大会表彰式 2年ぶりに開催

青の國大賞

宮崎県 綾町

鈴木みち子

恋人と呼ばれた男が片手ほど書架の名作全集に棲む

応募総数 5,610 首（過去 2 番目の応募数）の頂点に輝いた作品です。今年 2 年ぶりに表彰式が開催できそうです。表彰後は、一般の部自由題選者 伊藤一彦先生と、一般の部題詠、小・中・高校生の部選者 大口玲子先生お二人の講評があります。お出かけになられませんか。

開催日時 12月19日（日） 13:00～14:20（予定）
会場 日向市中央公民館

審査結果は文学館ホームページに掲載しています。

吉川宏志さん「お帰りなさい」 11月10日来訪

第 21 回若山牧水賞受賞歌人 吉川宏志さんがお立ち寄りくださいました。坪谷のお隣、越表（こしおもて）でお生まれになった吉川さんは、まさしく牧水の後を歩み、現代歌壇を代表する歌人のお一人でいらっしゃいます。5 年前の牧水賞受賞の折にはご両親と一緒に来館され、越表地区での歓迎セレモニーが懐かしく思い出されます。



牧水賞受賞歌集『鳥の見しもの』を手に
若山牧水賞受賞者パネルの前で



尾鈴の山なみを記念に 1 枚
牧水生家 2 階にて

現在、文学館では「三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫 受け継がれた二人の絆」第2期を開催しています。時機到来の11月21日(日)、今回の企画展全資料391点をご寄贈くださった三浦京子さん(広島市在住)が娘さんと一緒に来訪されました。牧水と親交の深かった三浦敏夫は、京子さんのご主人の父に当たります。

作品をひとつひとつ丁寧にご覧になりながら、自宅でのエピソードをお話くださったり、とても懐かしんでいらっしゃる様子でした。一緒に過ごしたことのない娘さんたちも、祖父の偉業をひとつひとつ確かめるようにご覧になっていらっしゃいました。

また、この貴重な資料を寄贈いただくにあたり、仲介役としてお骨入りいただいた遠藤堅三さん、奥富紀子さんも合わせてご来訪いただきました。

牧水全集に収められていない手紙や「百首歌鈔」(文学館だより6月号にて紹介)をはじめとする一点ものといわれる貴重な資料の数々。大切に保管するとともに、牧水を知る資料として活用を図っていきたいと思います。



企画室見学のひとこま



ご来訪いただいたみなさま 右から

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 今村 卓也 日向市教育長 | 2 三浦 信子さん(京子さん長女) |
| 3 三浦 敦子さん(京子さん次女) | 4 三浦 京子さん |
| 5 橋口 寛 日向若山牧水顕彰会理事 | 6 遠藤 堅三さん(前吉備路文学館館長) |
| 7 奥富 紀子さん(前吉備路文学館学芸員) | 8 那須 文美 日向若山牧水顕彰会会長 |

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

まど さき

窓前の瀬戸はいつしか瀬となりぬ

白き浪たちほととぎす啼く 三浦君が離室にて

先ほどの「三浦京子さん 来訪」に続きます。

牧水は、大正2年5月、岩城島滞在中に歌を2首詠んでいます。これはそのうちの1首です。三浦敏夫は、この歌と喜志子夫人の歌を並べて刻んだ歌碑を自宅に建てます。敏夫宅は、現在、岩城郷土館(愛媛県越智郡上島町)として自由に見学できるよう開放されています。

「三浦君が離室にて」とあるように、この歌は三浦家にとって、思い出深い1首であろうと思い、三浦京子さんと娘さんには、この歌を書いた板額(右写真)をお帰りの際にお贈りしました。

